

2026

10-11月

はしかけニューズレター

2026年度 第4号 通巻191号

2026年(令和8年)10月15日発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 環境学習・交流係 (はしかけ担当職員: 島本・中村・太尾田)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp/>

～ 目 次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 淡海スケッチの会 (3) 近江はたおり探検隊
(4) 大津の岩石調査隊 (5) 温故写新 (6) 暮らしをつづる会 (7) 古琵琶湖発掘調査隊 (8) 里山の会
(9) 植物観察の会 (10) たんさいぼうの会 (11) 田んぼの生きもの調査グループ
(12) ちこあそ(ちっちゃなこどもの自然あそび) (13) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 (14) びわたん
(15) ほねほねくらぶ (16) 緑のくすり箱 (17) 虫架け (18) 森人 (19) 琵琶湖梁山泊 (20) サロン de 湖流
(21) 水と暮らし研究会 (22) 内湖を知ろう会

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(10月～11月)

4. 学芸職員・特別研究員による研究セミナー(10月～11月)

5. 生活実験工房からのお知らせ

6. その他の事項

会員数 ... 433人

グループ数 22グループ

(2026年10月14日現在)

1. 事務局からのお知らせ

今年の夏は猛暑が続きましたが、9月に入ってからは一転して雨ばかりの毎日。10月に入ってやっと日差しが戻ってきました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。11月にはいよいよびわ博フェスが開催されますが、準備を着々と進めていらっしゃるかと思います。朝方はめっきり涼しくなり、寒暖差も大きくなっていますので、体調管理に気をつけ、万全の体調で秋のイベントにのぞみましょう。それでは、以下、事務局からのお知らせです。

■びわ博フェス(11/14-15)に向けた準備が進んでいます

秋らしくなってきましたが、博物館ではびわ博フェスに向けた準備が進んでいます。ご出展いただくはしかけグループの皆さんも、色々と考えてくださっているのではないのでしょうか？

びわ博フェスは、様々なグループが一堂に会す機会ですので、ご自身のグループだけでなく、他のグループがどんな活動をしているかも、ぜひのぞいてみてください。学芸員によるステージ企画なども充実の予定ですので、学芸員ともぜひ交流していただければうれしく思います。

今年は草津ブランド推進協議会主催の「くさつスイーツ・マルシェ in びわ博フェス」が同時開催されます。普段なかなか博物館に足を運ぶ機会がない皆様、活動を開始したり、再開するきっかけを探している皆様も、ぜひご参加ください！

詳細情報は、ウェブページをご確認ください。



▲びわ博フェスのご案内

■9月、10月開催のはしかけ登録講座について

9月にオンライン、また10月10日には琵琶湖博物館にて対面で登録講座を開催しました。受講された方で今後はしかけグループへの入会を検討されている方は、登録講座でお配りした資料に記載の希望グループ代表メールアドレスまで、グループ参加希望の旨をお知らせください。また、各グループの代表者・会員の皆さまには、新規会員の方がスムーズに活動へ参加できるよう、ご協力をお願いいたします。

今年度最後のはしかけ登録講座は、2月にオンラインで開催する予定です。お近くに、はしかけ活動に興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひお誘いください。

■フィールドレポーター事務局からのお知らせ

フィールドレポーター掲示板 107 号が発行されました。

琵琶湖博物館ホームページからダウンロードできます。ぜひチェックしてみてください。

びわ博フェス 1 日目(11 月 14 日)、フィールドレポーターは「つけものであそぶ〜クイズとパズル〜」ワークショップを実施します！

■琵琶湖博物館開館 30 周年記念、シーボルト江戸参府 200 周年記念企画展示「博物館はタイムマシンー魚類学者がみた琵琶湖ー」(第 34 回企画展示)と関連セミナー・国際シンポジウムのお知らせ

第 34 回企画展示を、皆さんはもうご覧になりましたでしょうか？好評を博しており、8 月 27 日(木)には入場者が 5 万人に達しました。本展示では、国内外の博物館で保管されている貴重な標本約 230 点を展示しており、中でも、ドイツ人の医師・博物学者シーボルトのコレクション 4 点(トキ、ドジョウ、ゲンゴロウブナ、カマツカ)は、日本初公開で注目を集めています。

10 月 17 日には今回の展示を記念してトキセミナーを、また 10 月 24 日には、トキや魚類の標本をお借りしたオランダの博物館 2 館から講師を招待して国際シンポジウムを開催します(セミナー、シンポジウムは事前予約が必要です。びわ博 HP の「イベント情報」をご覧ください⇒<https://www.biwahaku.jp/event/seminar/>)。

企画展示は 11 月 23 日(月)まで琵琶湖博物館企画展示室にて開催中です。企画展示の観覧には、常設展示観覧料に加えて、別途観覧料金が必要になりますのでご注意ください。ご来館をお待ちしております。

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 44 名】

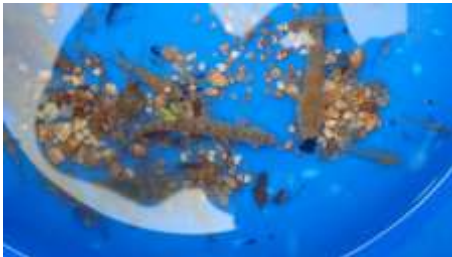
グループ担当職員: 田畑 諒一、川瀬 成吾

【活動報告】

■9月20日(日) 第200回定例調査 場所: 大戸川 参加者: 44名

連休2日目に実施された活動は、記念となる第200回定例調査となりました。200回記念にふさわしく(?)、44名というおそらく過去最多の参加者が集まり、対象となる大戸川の信楽町域を、5班体制で満遍なく調査する形をとりました。

採集された魚は、上流から下流まで共通するもの(カワムツ、オイカワ、ヨシノボリ類など)、上流にのみ見られたもの(タカハヤ)、点々と確認されたもの(ナマズ、ドジョウなど)があり、似た環境が続くように見える信楽盆地内の大戸川でも、微妙に結果が異なり、各班の報告を聞いてとても興味深かったです。天気にも恵まれ、存分に採集を楽しめた初秋の1日でした。



採集された魚たち



調査の様子



カマツカ

(文責: 中尾博行)



(2) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15 名】

グループ担当職員: 榎永 一宏

【活動報告】

■2026年8月23日(日) 琵琶湖博物館 参加者 7名

オープンラボでスケッチ。

俳句部は博物館敷地で吟行句会をしました。

■2026年9月27日(日) 琵琶湖博物館 参加者 8名

オープンラボでスケッチ。

俳句部は博物館敷地で吟行句会をしました。

【活動予定】

○ 2026年10月25日(日) 琵琶湖博物館

オープンラボや敷地内でスケッチや吟行を行い、午後は句会も予定しています。

活動時間 10時30分～(16時)

○ 2026年11月15日(日) 琵琶湖博物館

オープンラボや敷地内でスケッチや吟行を行い、午後は句会も



予定しています。

活動時間 10時30分～(16時)

※持ち物／スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。
俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。

■博物館 de 俳句

8月23日 大鯰句会

大鯰拝謁叶いて白き腹	巳刻
青柿落つそばに烏の羽一つ	稚鮎
岩の背に差しくる光法師蟬	桜子

9月27日 大鯰句会

藪に入り羽根閉じ止まり鳥鳴く	巳刻
縄文の根株に絡む蔦かずら	稚鮎
みずうみに太古の記憶雁渡し	敦代
秋の蟻秋の蝸牛を過ぎてゆく	桜子



(3) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ担当職員:大久保 実香

【活動報告】

<織姫の会>

■7月29日(水) 参加者:4名

今年のびわ博フェスのワークショップ「竹の織り機でキーホルダーを作ろう」の試作。タテ糸やヨコ糸の密度や太さを色々調整しながら、簡単にできる方法を模索しました。

■9月5日(土) 参加者:6名

前回試作したキーホルダーに金具と鈴をつけて完成させました。どうしても織り作業に時間がかかってしまいますので、もう少し簡単にできるように工夫します。

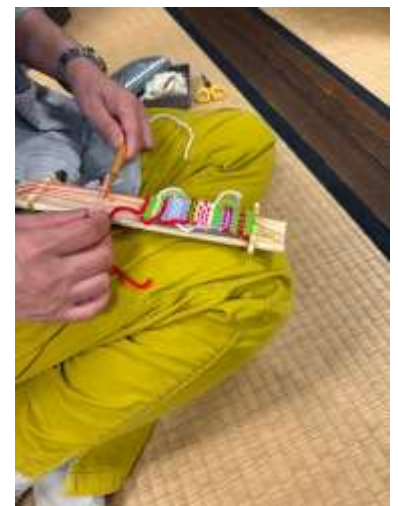
【活動予定】

■織姫の会

10月3日(土)、14日(水)、11月4日(水)、12月12日(土)

11月15日(日) びわ博フェス「竹の織り機でキーホルダーを作ろう」

(注意:今後変更する可能性があります)



7月29日 竹の織り機試作

(文責:辻川智代)



9月5日 試作品完成



(4) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 17名】

グループ担当職員: 里口 保文

【活動報告】

■2026年7月の活動

○勉強会 偏光顕微鏡と薄片の勉強会

参加者: 8人

・場所: 実習室1

・日時: 7月19日(日) 13:30~16:00

・目的: 岩石は光の透過性も低く通常の顕微鏡ではわかりえないことが多い。岩石を研磨し薄い薄片を作製し偏光顕微鏡観察を行うことで、様々な情報が得られる。今回の目的は、岩石薄片の基本的な見方と理論の基礎をこの勉強会で学び、研究する岩石の疑問解決に役立たせようとするものです。講師は当隊所属の専門家で、初心者からベテランの隊員の課題にも対応できる方をお願いしました。

・勉強会での内容 一偏光顕微鏡の構造・見方一

- ①偏光顕微鏡とはどういうものから始まり、鉱物の分類、偏光顕微鏡の見方についてお教え頂いた。
- ②観察鉱物は石英から始まり、斜長石・アルカリ長石・黒雲母・白雲母・角閃石等多種で、身近な物から見慣れない物の知見が得られた。
- ③専門家の講師の提言: 偏光顕微鏡と薄片観察の学習会はここ何年か行っているが、薄片作成についてはその体験をするだけになっている。大津の岩石調査隊としては、岩石を調べるというテーマの中で、薄片を作ることを今一度理解し、岩石を調べるために薄片作成の必要が生じたら隊員自身で薄片を作って、今後の勉強会などで報告できれば良いのではという話が提言されました。

■2026年8月の活動

○「びわ博フェスに向けての検討会」参加者 9名

・場所: 実習室1

・日時: 8月23日(日) 13:30~15:30

・目的: びわ博フェス共通事項の説明と、ポスター内容やワークショップ内容などについての話し合い、今後の活動を着実にすること。ポイント下記。

- (1) ポスターは、前年度に比べ野外活動が少ないためどの活動を載せるのか迷ったが、3つの活動を中心に載せる事に決まった。
- (2) ワークショップは「クイズに答えて、標本箱を作ろう!」というテーマで開催されるため、びわ博フェス当日のタイムスケジュールや役割や大体の段取りなどを決めた。
- (3) ワークショップの標本箱に使用するために、野洲川と佐目で採取した岩石の同定もおこない、花崗岩、チャート、泥岩、石灰岩と4種類の岩石を使うことになった。
- (4) フェスに来てくださる参加者の皆さんが、石を大好きになって喜んでくださるようなワークショップにしたいと思う。
- (5) 今回の標本箱には使用しないが、採取した転石で変わったものも見つかった。今後は採取地の近くにその岩石に似た露頭がないか、どのような成因でできたのかも調査していきたい。

■研究論文の公表

当グループの隊員が、他研究者らと共同で滋賀県地域の岩石について調査した論文が地球科学という学術雑誌に公表されるとの連絡が入りました。おめでとうございます。皆さん調査研究中のテーマは面白そうです。是非、論文に try ください。

■活動予定

○9月

9/22(火・祝日) 屋外調査 栗東の鶏冠山。実施済。

○10月

10/20(火) 屋外調査 近江八幡の沖島

○11月

11/7(土) 大津の鹿跳溪谷周辺 他 G 主催の子供達と河原の岩石を見つけるイベントのお手伝い。

11/14(土)/15(日) びわ博フェスに参加

○12月 休止

○1月

日程未定 博物館：岩石持ち寄り情報交換会と後半は新年度改革会議

○2月

2/13 博物館 わくわく探検隊 [岩石標本を作ろう] への協力

日程未定 地学研究発表会



(5) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ担当職員:金尾 滋史、加藤 秀雄

【活動報告】

■活動日 8月 8日(土)

参加者 8名

活動内容 メンバーの写真鑑賞会

今年度2回目の写真鑑賞会を実施しました。

メンバー各自が、昔に撮影した写真も紹介していただき、ここ数年で変化している景観や地域の行事があることに驚き、「温故写新」の活動の意義を再確認させていただきました。

■活動日 9月 27日(日)

参加者 8名

活動内容 金尾学芸員による写真教室

温故写新のメンバーが日頃写真を撮るうえでわからないことや悩んでいることを金尾学芸員に尋ね、それにこたえていただくというスタイルで写真教室を実施しました。

質問から学んだことを簡単に紹介します。

- ・動いているものにピントを合わせる方法。＜フォーカスモードを AF-C に設定する。＞
- ・F 値によるピントの合う範囲の違い。＜F 値を上げると手前から遠くまでピントが合う。＞
- ・動いているものを止めて撮る方法。＜シャッタースピードを速くする。＞
- ・画像の保存形式について。＜JPEG の高画質モードがよい。＞
- ・画像の横縦比について。＜4:3 または 3:2 が一般的＞

などなど…

他にも写真の構図のことやレンズの望遠と広角の特徴についても教えていただきました。

今回学んだことを明日からの写真撮影に生かしていきたいと思います。

【活動予定】

■10月 25日(日) 10:00～12:00 琵琶湖博物館

内容: びわはくフェスの準備

(文責 谷口)



(6) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:大久保 実香

【活動報告】

8月、9月の活動はありませんでした。

【活動予定】

地域の人に話を聞いてまとめてみたい、自分史を書いてみたいなどのご関心がある方は、担当学芸員までご連絡ください。

(大久保)



(7) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ担当職員:半田 直人

【活動報告】

■古脊椎動物学についての勉強会

日時:7月20日(月・祝) 13:00~16:00

場所:琵琶湖博物館実習室1

古琵琶湖発掘調査隊では、担当学芸員としてご指導いただいている半田先生を講師にお招きし、古脊椎動物学についての勉強会を開催しました。

半田先生からは、生物分類の歴史や、古生物学と考古学の違いといった基礎的な内容に加え、ゾウやサイの生息地、分類の変遷についてもわかりやすくご講義いただきました。さらに、先生が古脊椎動物の研究を志したきっかけや、今後取り組んでいきたい研究についてもお話いただき、大変興味深い学びの機会となりました。

今回の勉強会を通して、会員一同、今後の観察会やフィールドワークにもより一層意欲を高めることができました。



古脊椎動物学についての勉強会



実物の化石を見ながら勉強

■咽頭歯化石の観察、同定作業

日時:9月6日(日) 13:00~16:00

場所:琵琶湖博物館実習室1

多賀町での発掘調査で発掘された未同定の咽頭歯化石の観察・同定作業を行いました。

昨年度から定期的に作業を行っており、今回は、一部欠けた咽頭歯化石や泥がどうしても取り除けなかった咽頭歯化石を中心に観察、同定作業を行いました。特徴が明らかでないものが多いため、一つ一つの同定に時間を要しましたが、コイの仲間で歯の順列は○番目・●など、ある程度の咽頭歯化石を同定することができました。

数回前の作業では保存状態のよい咽頭歯化石でもなかなか観察、同定作業がスムーズにいきませんでした。経験をつんだことで観察、同定スキルが確実に成長していることを実感できました。

今後も定期的に観察、同定作業を行っていきます。



咽頭歯化石の観察、同定作業

【活動予定】

■10月4日(日) 13:00~16:00

三重県服部川(伊賀市)

服部川での発掘調査・貝化石の採集

■11月1日(日) 13:00~16:00

琵琶湖博物館実習室1

貝化石のクリーニング、標本作り(びわ博フェスに向けた準備)



(8) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 17名】

グループ担当職員: 奥田 岬・島本 多敬

■8月2日(火) ライト版里山体験教室の準備 会員5名

8月30日のライト版里山体験教室に向けて、体験メニューの「びわ博の森探検」や「昔の道具さがし」の準備、ハンモックを吊るす場所の確認をしました。毎年、野洲の「はしかけの森」を舞台に春夏秋冬の年4回でおこなう里山体験教室とは違い、びわ博の敷地で開催する「ライト版」は今回が初の試み。メンバーで真剣にアイデアを出し合い、プログラムを調整しました。(島本)

■8月30日(日) ライト版里山体験教室とそばの種まき 会員8名

びわ博も30周年を迎え、リニューアルが進んできました。里山体験教室も、はしかけの森(野洲市大篠原)での開催に加えて、気軽に参加してもらえるように「ライト版里山体験教室」として琵琶湖博物館施設内で開催することになりました。野山にあまり馴染みのない方やマイカー利用が日常的でない方にも、里山への入口が近くなればありがたいです。

里山体験教室は、その場所その時の、旬のものとの出会いを大切にしています。加えてライト版では、びわ博施設内での開催をプラスにとらえて、里山は自然の営みと人の暮らしが繋がった所であることを知る機会として、生活実験工房周辺の生態展示や工房施設にある道具などを生かせる企画づくりをしました。

そこで決めたのは、「暮らしに役立つ植物」と「暮らしで使われてきた道具」のつながりを知ること、工房の畑で栽培している藍で「葉っぱのたたき染め」、以前から人気の「森のハンモック遊び」となりました。詰め込み過ぎた内容ですが、再考のゆとりもないまま、参加者の皆さんを迎えました。

特に、工房内にある昔の道具はスタッフにとっても背景的な存在で、手に取ってみることも少なかったようですね。参加者の好奇心に促されて、わずかな時間でしたが共に時間軸を紐解いていく楽しい時間を共有することもできました。

最後に、参加者の皆さんとイベントのふりかえりをしました。良い感触がほとんどでした。特に、昔の道具に関連した感想が多かったようです。武将や史跡などの人の歴史だけでなく、昔の道具や植物にも、歴史をひも解いていく楽しみがあることを知ってもらえたならうれしいです。

これからも色々な方のご意見を参考にして、ライト版を続けていきたいと思います。

午後からは、工房の畑で蕎麦の種まきをしました。結果は又の機会に報告します。ありがとうございます。(寺尾)



■9月26日(土) 道具整備とびわ博フェスの打ち合わせ 会員4名

9月26日琵琶湖博物館工房にて「道具の手入れ」をしました。ハンモックの虫干しもいれていましたが、雨のため干せませんでした。実は数日前より数人で布を家に持ち帰り洗濯してきました。のこりはぼちぼち洗う予定です。

さて、道具の方は、倉庫の整理を兼ねて、使えるもの、手入れが必要なもの、廃棄するものなどに分類し、一目でわかるよう工夫しました。後日さびとり等の手入れができたらと思っています。工房活動の時にでも倉庫をのぞいてみて下さい。(柳原)

【今後の活動予定】

10月4日(日) びわ博フェス準備

11月7日(土) そばについて学ぶ会

11月14日(土) びわ博フェスワークショップ(竹鈴づくり)



(9) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

今年は、地震、豪雨による被害が相次いだ。海面温度が高いことなどによる線状降水帯が多く発生し、私の住む三重県北部の一部の地域でも9月8日に怖いぐらいの雨が降った。傘を差して数メートル歩いただけで髪の毛も洋服もずぶぬれになるほどだった。

また、今年は気象予報に「酷暑」という項目が付け加わり、文字通り体温を超す暑さが続いた。

植物も暑さのために枯れる庭木を多く見かけた。ススキの穂も、早い年はお盆過ぎから出てくるが、今年は9月に入ってからやっと出始めた。まだまだ暑すぎて、カキやクリの実が大きくなり、庭の雑草の種類が変化してきたことでしか、秋を感じられなくなっている。

【活動報告】

■8月2日(日) 暑さのため例年おやすみ

参加者0名

■9月6日(日) 「持ち寄り観察」「後期の計画」 博物館実習室 1 10:00~12:00 参加者4名

9月には長雨が続き、うんざりする毎日だったが、植物たちは酷暑から解放され、元気を取り戻したようだ。

この日は、見たいものを各自が持ち寄っての観察だった。

まずは、エノコログサ。これは、キンエノコロか？ 芒(のぎ)が金色で茎も垂れずに直立しているから間違いないだろう。イネ科やカヤツリグサの穂は、完全に茎が伸びきって(一番上の葉や苞葉から穂までが完全に伸びきる)から見るのがよい。

特にカヤツリグサは、伸びきるまでに採取してしまうと、その後、花序が成長して全く違う様子になったりするので注意が必要だ。

エノコログサの仲間で、今この周辺にあるのは、アキノエノコロ(穂が太く茎部分から垂れる)、普通のエノコログサ(穂は3~4cmで少し垂れる)、キンエノコロ(穂は垂れない、直立、芒(のぎ)が金色に見える、茎が比較的固いので私はトノボの標本づくりで芯材として使っていた)、あと日本のものが外国へ行き再度日本に入ってきた(飼料や肥料に混じって)帰化のもの(穂が太いがあまり垂れない、穂の先端がほそくなっている、図鑑で調べたが分からなかった)。図鑑には、ムラサキエノコロも載っていたが、見た覚えはない。

次に、シマスズメノヒエ。古い図鑑には載っていない帰化植物。花序に並ぶ葯(やく)が黒っぽいことで、在来種のスズメノヒエ(今は外来種が入り込んでいないところにしか残っていない、葯が黄色い)と区別ができる。びわ博の駐車場付近では、シマスズメノヒエに加え、タチスズメノヒエ(背丈が高く100~150cmにもなり、ほぼ直立する)、アメリカスズメノヒエ(花序が2または3に分かれVの字に見える)も見られ、違いを観察するにはちょうど良い。

シマスズメノヒエの小穂の形、おしべの葯、めしべの色や様子を図鑑と照らし合わせながら見た。ルーペではなかなかここまで見られない。こうやって実習室で細かくみられるのは有難い。

ここまでで、90分を使ってしまい、時間切れ。一端観察の手を止めて、10月からの後期に向けての計画を話した。

メンバーが持参したシロタエギクの葉がなぜ白く見えるのかも顕微鏡で見たかった。園芸種の紫アザミの実も割ってみたかった。最後に、センニンソウとボタンヅルの葉の形の違いを少しだけ見て終了。

【今後の活動】

■月に1回、第1日曜日の午前または午後を予定しています。

■外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変則的になります。

基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行方」方向でいます。

■8月、2月は、例年お休みしています

■10月 4日(日) 「博物館周辺・湖岸の観察」 博物館付近 10:00~12:30 ごろ

■11月 1日(日) 「お出かけ観察」 近江富士花緑公園 野洲市 9:45~12:30 ごろ

■12月 6日(日) 都合によりお休み

■1月 10日(日) 「持ち寄っての観察」 博物館内 未定 10:00~12:30 ごろ

■2月 7日(日) お休み

■3月 7日(日) 未定

※新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染拡大等によっては、お休みになることがあります



(10) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ担当職員:大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

第82回たんさいぼうの会総会が、9月27日(日) 13:30~15:30に、琵琶湖博物館研究交流室+オンラインのハイブリッドで行われました。参加者は影の会長を含めてオンサイト5人、オンライン1人の計6人でした。総会では、団体・個人の活動報告のほか、びわはくフェスの打ち合わせや今後の活動計画について話し合われました。

この総会でも報告されましたが、副会長である富さんの尽力により、たんさいぼうの会のウェブページが充実してきています。総会での議論の結果、コンテンツを少し追加してさらに充実しました。このページから、たんさいぼうの会会員名義で出版された論文等にアクセスできます。また、このページを作成している富さんが出演している「ゆる珪藻ラジオ」へのリンクも張られていますー必見！

会員の安達さんが自宅近くの堅田内湖で大量増殖しているのを発見した(おそらく外来種の) *Sellaphora constricta* の出現報告を、九州諸河川からの報告と併せて論文化し、学会誌 *Diatom* に投稿していました。この論文が、8月末にめでたく受理されました。

福留真樹・安達 誠・根来 健・大塚泰介. 2026. 日本における *Sellaphora constricta* Kociolek & Q-M.You の出現について. *Diatom* 42(印刷中)

次のニューズレターが発行される頃までには出版されると思います。フリーアクセスです。お楽しみに。

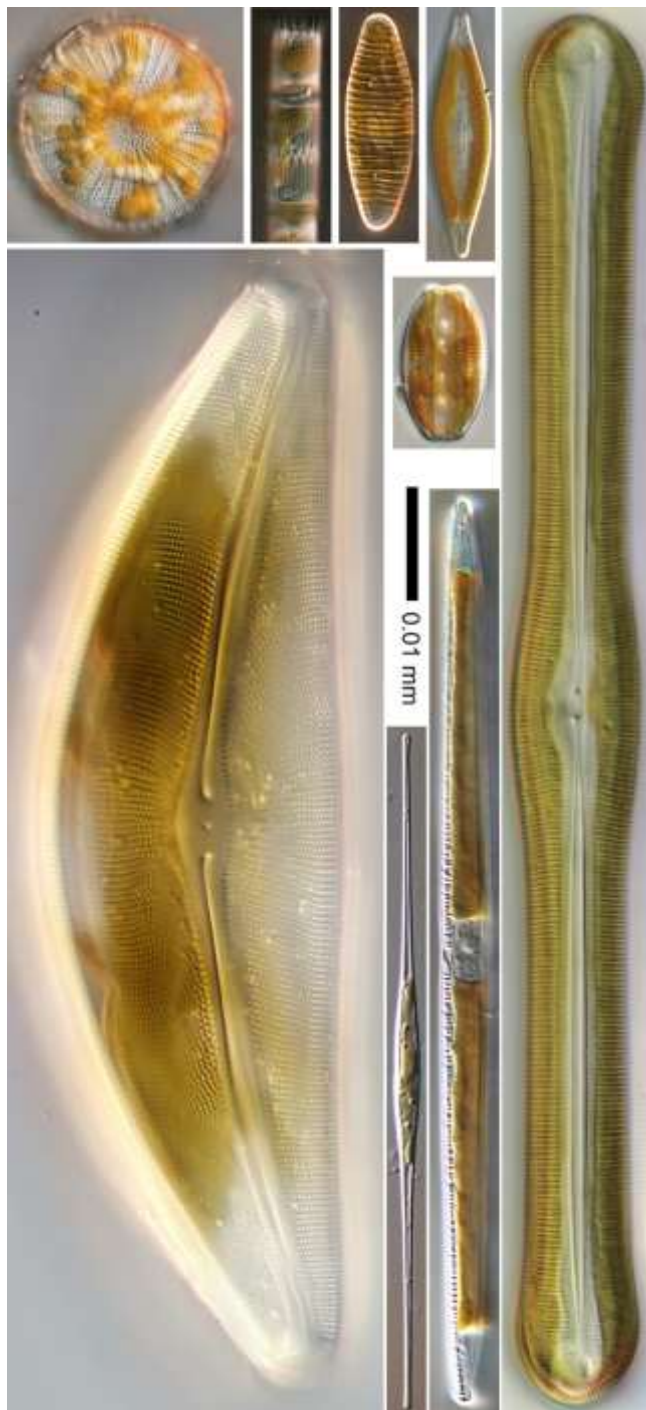
他にも野田沼・曽根沼(彦根市)の珪藻、瀬田公園(大津市)の珪藻など「たんさいぼうの小さな旅」で採集してきた珪藻の報告や、堅田内湖(大津市)、千種川(兵庫県)、黒沢湿原(徳島県)、愛知県の湧水湿地群などの珪藻研究も、少しずつですが進めています。

交流室に設置された Nikon Eclipse 80i の、油浸 100×対物レンズを交換しました。影の会長が中古の代替品を海外から(!)通販で購入し、その半額あまりを会費と会員のカンパで賄いました。ここでは具体的な金額は伏しますが、結構な金額を要しました。動作試験をしたところ、1 μm あたり 4 個程度の胞紋もどうにか解像できており、本機の 10 年前と同等の分解能に回復していました。再発防止のため、今後この顕微鏡を油浸光路系で用いる人には、最初に必ず影の会長のインストラクションを受けていただくことにします。

【活動予定】

11月14日・15日のびわはくフェスでは、「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」とともに、マイクロアクアリウムをジャックします。今年は何を見せようかな？

雪が降る前に、安曇川のミズワタクチビルケイソウ定着地の状況を見に行きたいのですが、クマが怖いです。クマの出没状況を見て判断しようと思います。





(11) 田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11 名】

グループ担当職員:鈴木 隆仁

ここ数年、猛暑と豪雨に悩まされる夏が続いているように思います。今年も、各地で豪雨と長雨による災害が発生しました。被害にあわれた皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。つかの間の晴れ間に、稲刈りをされている農家の皆様のご苦労にも、頭が下がります。田んぼのエビ類は、来年春の田植えまで長い休眠に入っていることと思います。この季節の私たちの活動は、サンプルの同定とその結果の整理・分析です。

【活動報告】

8月9日に、琵琶湖博物館実習室1で本年度に採集したサンプルの同定会を実施しました。夏休みのお盆前に実施できたこともあり、遠方に転勤されて4年ぶりの参加となった会員や、小中学生の会員の方々にも参加いただき、久しぶりににぎやかな活動になりました。また、本年度は、準備会の際に会員の皆様にお住まいの地域周辺での調査をお願いしたこともあり、滋賀県内各地だけでなく京都市からもサンプルが寄せられました。同定作業の結果、188本のサンプル瓶に整理することができました。



【活動予定】

10月または11月に、本年度調査の結果報告会を実施する予定です。日時につきましては、会員の皆様のご都合をお伺いした上で決定し、改めて連絡します。

(山川 栄樹)



(12) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員:中村 久美子

※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。また10時から14時までの一日の活動としています。(お子さんの様子に合わせて、いつ来ても、いつ帰ってもOKです。)

【活動報告】

■8月の活動 ちこあそはお休みでした

■9月の活動 9/16(水) 10組(幼児14名、大人10名)

8月の猛暑から一転、雨が続く9月となりました。なぜか晴れが多いちこあそも、じめじめした活動となりました。涼くなった分、夏から秋への生き物たちと出会いました。これから刈り取りを迎える田んぼの稲穂の間には、ハラビロカマキリ、オンブバッタ、クビキリギス、クサキリ、コカマキリ、イナゴ、チョウセンカマキリが見られました。虫取り網を持って、子どもも大人も虫取りです。じめっとしているので、ヌマガエルもピョンピョンとはねています。子どもたちもそれをおいかけてピョンピョン。

工場の裏を探検すると、キノコがいっぱい生えています。そうじめじめしているのが嬉しいのは、カエルだけではなく、キノコたちも一緒です。小さなキノコ、大きなキノコ、白にオレンジ色に、押すと胞子がホワッと舞い上がるものや、まるでキノコの見本市のように見られます。

雨が降って、樹上から降ってきたものがありました。秋といえば栗、シバグリが落ちています。例年ちこあそで、「栗見つけたー」となると、大抵虫に食べられているのが多いのですが、今年は落ちたてのようで、きれいな栗が拾えました。かわいい栗を集めて、パンダナおじさんに焼いてもらいました。

ちこあそメンバーからの提案で、ちょっと実験をしました。いろんな砂を集めて、糊をまぜてお絵描き。上手くできたら、びわ博フェスで楽しんでもらう予定です。

■ちこあそが広がっています(子ども園さんの受け入れ2回目) 8/25、8/26

ちこあその新しい絵本を読んでもらった草津市内の子ども園さんが、ちこあその世界を体験したいと希望され、年長さんが来館されました。はしかけメンバーと一緒に、生活実験工房でたっぷり自然を楽しんでももらえました。ちこあその活動が少しずつ広がってきた成果です。6月に続いて2回目の受け入れです。

■あたらしいちこあその絵本ができました！

半年間をかけて、ちこあその田んぼの1年を楽しめる絵本を製作しました。前回に続いて2作目です。新旧の絵本を楽しんでもらえるようになりました。

3回スタンプがたまると、絵本がもらえます。お家で絵本を読んで、室内でもちこあそを思い出して欲しいとの思いです。ぜひ3回来てください。



長い秋の雨。それでもみんな遊びにやっ
てきてくださりました



ハラビロカマキリ捕まえたよ
ハリガネムシは出てくず



工房の裏では、キノコがいっぱい
大きなホットケーキみたいなキノコも

今回のちこあその報告は、代表の池田勝(まっちゃん)が担当しました。

【今後の活動予定】びわ博ホームページで1か月前から参加予約ができます。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
10月	10月21日(水) 10:00-14:00	ちこあそ 10月	定員 10組 予約制です。びわ博イベントHPからお申し込みください。 毎月おおよそ第3水曜日に行っています。
11月	11月18日(水) 10:00-14:00	ちこあそ 11月	ルーペでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチ過ごしま す。
11月	11月14日(土) 午前の部 11月15日(日) 午前の部	ちこあそ 特別版 自然であそぼう	びわ博フェスでは、いつもと違うちこあそを楽しんでもらえます。

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



(13) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 33名】

グループ担当職員:大塚 泰介

【活動報告】

■2026年8月16日(日) 参加者:18名、学芸員:2名

博物館前と瀬田川のプランクトンを観察しました。最近小学生が家族連れで3組参加しているのですが皆生き物に詳しく、プランクトンについてもマニアックな知識を持っていて将来が楽しみです。また今回、観察会の中で正体不明な生き物が見つかったのですが後日、熟練会員のおかげでラン藻を食べるアメーバであることがわかりました。

■2026 年9月 23 日(水) 参加者:15 名、学芸員:1名

博物館前のプランクトンを観察しました。今回採集したサンプルの中に魚の寄生虫である「チョウ」が入っていました。先月見ることの出来たラン藻を食べるアメーバは博物館前では見つかりませんでした。



8月16日の採集の様子



8月16日の活動の様子



アメーバ



8月16日の活動で見つかったプランクトン



チョウ



9月23日の活動で見つかったプランクトン

【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方ははしかけ代表アドレスまでお問い合わせください。



(14) びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ担当職員:桑原 康一

【活動報告】

■9月12日(土) 日光で写真を撮ろう!～水草でアート 参加者 9名

午前中に水草を洗って同じ種類に分ける準備をびわたんメンバーでしました。この作業が面白かったです。みんなで水草を囲んでおしゃべりしながら(*~*)同じ?違う?わいわい出来ました。

芦谷学芸員に最後に答え合わせしてもらったのですが、違うものが混ざっていました。何が違ったのか説明していただき、自分で分類チャレンジしたのでより知識が染み込んだ気がします(笑)

プログラム始めに、水草の暮らしを芦谷学芸員から聞きます。茎の違いが参加者に分かりやすかったようです。続いて好きな水草を選んで、びわたん手作りカメラで日光写真を撮りました。スマホで写真を撮る事が当たり前の時代に、自分でシャッターを動かして日光の量を見て秒を変える。難しかったと思いますが、3回チャレンジ出来たので色々工夫しながら良い写真が撮れたと思います。





(15) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 21 名】

グループ担当職員:松岡 由子、半田 直人

【活動報告】

■8月9日(土) 参加者:5名

タヌキの解剖、魚の解剖、ナマズの解剖、キジバトの解剖を行いました。

■8月22日(日) 参加者:4名

タヌキの解剖、カミツキガメの除肉、キジバトの翼標本の制作を行いました。

■9月12日(土) 参加者:5名

ナマズの解剖、魚の除肉、キジバトの除肉、カミツキガメの除肉を行いました。

■9月27日(日) 参加者:4名

タヌキの解剖、キジバトの翼標本の制作を行いました。

【活動予定】

10月の活動日は10(土)、24(土)を予定しております。

11月の活動予定日は現在未定ですが、
月に2、3回の活動を予定しております。



(16) 緑のくすり箱

【活動報告日の活動会員数(のべ) 21 名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

■8月8日(土) 参加者:16名

活動内容: 藍の生葉染め(琵琶湖博物館・生活実験工房)

3月にメンバーに藍の種を配り、自宅で苗を育ててもらってから、4月に生活実験工房の畑に定植してから、水やりや雑草取りをしながら育てた藍で、ついに藍の生葉染めをする日がやってきました。

今年はとても暑い夏となり、藍が枯れてしまわないか心配でしたが、担当メンバーが水やりなどを頑張ってくれたおかげで、沢山の藍の葉が収穫できました。藍を育てて気が付いたことは、少し日陰ができる場所のほうが生き生きと育っていること、またマルチをしたほうが、雑草が生えにくく大きく成長していたことです。

この日の活動の様子を琵琶湖博物館公式 YouTube チャンネル「びわこのちからチャンネル」で紹介して頂けることとなり、取材スタッフさんやカメラマンさんも一緒とお話をしながら活動をしました。藍を生活実験工房の畑で育てて、生葉染めをするのは、今年で2年目となり、経験者も増えてきたので、今年は自分で染めたいものをそれぞれ準備してもらい、大まかに手順だけ説明をしてから作業に入りました。染める資材は持ち込んでもらったため、その結果、絹のストールや、綿のハンカチ、麻のブラウス、リメイクしたいバックやポーチ、毛糸、葉っぱ染めのシャツなどなど…バリエーション豊かな素材が集まりました。

藍の収穫は、とても暑い中での作業となりました。ブルーシートにある程度刈り取った藍を広げ、葉っぱについているカタツムリや、蜘蛛の巣などをのぞきながら、皆で葉を摘み取りました。葉と水をミキサーにかけ、染液を作ったあと、絹やウールなどの動物性の素材はそのまま染液に浸し、麻や綿など植物性の素材は、染液に助剤を加えてから浸していきしました。

緑色の染液が、少しずつ青色に変化する様子や、染液から洗い、きれいな青色が発色した瞬間などをカメラに納めて頂き、とても嬉しかったです。ぜひ沢山の方にびわこのちからチャンネルを視聴していただきたいです。



【参加者の感想】

- ・藍の葉から色を頂いて楽しかったです。みんなのやってみようという気持ちが面白かったです。
- ・生葉染めは色合いがとても柔らかく、少し緑がかっているようで、発酵液から染色されるものとまた違った風合いでした。

■9月12日(土) 参加者:6名

活動内容: 野菜の DNA をみよう(琵琶湖博物館・実習室1)

野菜の DNA を抽出する実験は、初めての試みです。身近な植物から DNA を抽出する実験を、琵琶湖博物館の実習室で行いました。当日は、トマト、バナナ、ブロッコリーをすりつぶして冷凍したものを担当メンバーが準備しました。また細胞も顕微鏡で見れるよう、冷凍していないものも持参しました。凍った野菜をすり鉢とすりこぎをつかって潰し、ドロドロにした後、中性洗剤、食塩水の順番で混ぜ、茶こし等で濾して、野菜の液を作ります。そこにエタノールを野菜の汁と混ざらないように、割りばしでコップにつたわせながらそっと注ぐと、フワフワとした糸状のものが現れます。

トマト、バナナ、ブロッコリーで試してみましたが、ブロッコリーが一番きれいに出来ました。DNA は意外と身近なもので取り出せることに驚きました。

【参加者の感想】

- ・普段、顕微鏡を使う機会がないので、野菜の細胞を見られたのは貴重な体験でした。

【活動予定】

- ・10月18日(日)、10月31日(土)
- 10:00~15:00 柚子胡椒作り(実習室2)
- ※2回に分けて開催します。



(17) 虫架け

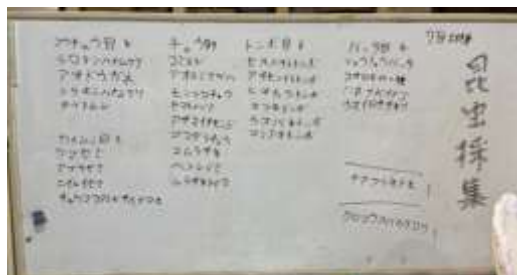
【活動報告日の活動会員数(のべ) 23名】

グループ担当職員:今田 舜介

【活動報告】

■7月26日(日) 9時半~12時 参加者:8名 琵琶湖博物館 生活実験工房

午前10時に受付を開始し、一般参加者9家族21名が参加して、虫架けメンバーと一緒に2グループに別れて工房周辺で昆虫採集をしました。最後に採集した虫の同定や虫採りの話をし、無事終了しました。皆さん、暑い中お疲れ様でした。



■8月1日(土) 10時半～15時 参加者:8名 長浜市

目的のルリボシカミキリは到着後すぐに発見し、昨年空振りのリベンジが出来ました。さらにタマムシもいくつも確保しました。主目的が果たせたので姉川の河口に移動し、特定外来生物に指定されているアカボシゴマダラやツシママダラテントウも確認出来ました。おもな目的の虫が確認出来たので15時に現地解散しました。



■8月8日(土)16時半～ 参加者:7名 高島市朽木

8月2回目の例会は少し風が心配だったのですが、それほどでもありませんでした。場所は見晴らしの良い峠で、早めに来たメンバーが場所を確認してくれていたのも問題なく出来ました。前半は虫の飛来数が少なかったですが、後半は数多くの虫が来ました。安全面を配慮してお子さんがいる家族は早く帰りましたが、残ったメンバーは燃料が切れるまで続行し、無事終了しました。



■9月12日実施予定の津市北比良での灯火採集は、中止となりましたので報告はありません。

また、「虫架け通信」94号、95号、96号を発行し、昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。

【活動予定】

これからも1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行う予定です。観察・採集などをして、滋賀県内の昆虫の分布調査をしたいと考えています。

(文責:伊東)



(18) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 16名】

グループ担当職員:林 竜馬

【活動報告】

■7月25日(土) 研究交流室 参加者(会員)5名 (博物館職員)林

- ①フォレストマスター秋号の最終確認
- ②森の入り口にある「森の探検マップ」の内容の見直し。文章を少なくして画像を入れ、とっつきやすいものにする
- ③9月13日に京都府立植物園で観察会を予定していたが、中止になったので代替案を考える。
- ④看板プロジェクトの一つの鉄製看板の亚克力板が外せることがわかったので、それを視野に入れてデザインや内容を検討する。

■8月22日(土)研究交流室 参加者(会員)6名 (博物館職員)林

- ①前回に引き続き「森の探検マップ」の内容の検討。
- ②鉄製看板(4ヶ所)の内容をどうするか検討。
 - ・琵琶湖の森で見られる春・夏・秋・冬の植物や動物、景色などの写真を、それぞれ24枚ずつ載せたものにする。
 - ・写真が少ない時期は四季を通じて見られるものを採用する。
- ③9月13日の代替案として、日吉大社の後ろの八王子山のイチイガシ探訪と周辺の植物観察に変更。

■9月13日(日)研究交流室 参加者(会員)5名 (博物館職員)林

雨天のため、観察会は延期。急遽会議に変更。

- ①会員 I さんより、5月に I さんのグループが開催された巨木イベント「巨木の成り立ちと古代からの森の遷移を学ぶ」についてのお話を聞いた。
 - ・樹木が傾いたときどのようにそれに対処するのか？針葉樹は倒れた側を強化し、広葉樹はその反対側を強化して体勢を立て直すとのこと
 - ・平安時代は今と同じくらい気温が高かった
 - ・古琵琶湖層群の植物相の変遷
 - ・地磁気の逆転現象など興味深い内容でした。
- ②会員 M さんより作成された「森の探検マップ」の試案をもとにさらなる改善点を話し合った。
- ③鉄製看板について。土台のサイズが約90センチ×60センチと判明。内容については次回以降に検討。
- ④びわ博フェスについて。
 - ・例年通りポスター展示とウォークラリーを予定
 - ・ウォークラリーは11月14日(土)に実施
 - ・今年も毎年好評のどんぐりプレゼントを実施する。できればコマを作って渡したいという意見が出て前向きに検討することに。
 - ・各自どんぐり収集をする。
- ⑤フォレストマスター秋号を9月10日から設置。

【今後の予定】

9月26日(土) 会議。看板プロジェクト
10月10日(土) 日吉大社周辺観察会
10月24日(土) 会議。看板プロジェクト
11月7日(土) びわ博フェス準備
11月14日(土) 15日(日)びわ博フェス参加 森のクイズラリーを14日に実施



(19) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ担当職員:大塚 泰介

【活動報告】

4月に結成された「花の中三トリオ」は、夏休みを最後に解散しましたが、うち一人はまだ「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」にやっています。夏休みの自由研究コンテストで上位入賞し、県のコンテストに出展することになったそうです。研究内容の充実ぶりは間違いなく超中学級なのですが、高度な解析技術を(自力で習得して)用いているため、これを審査員が理解できるか？だけが不安材料でした。この先も理解ある審査員にあたるといいなあ。ただし受験までの期間が短くなってきたので、受験勉強も怠らないように。

【活動予定】

琵琶湖梁山泊では、引き続き個人活動を継続するとともに、新規会員を大募集します。他のはしかけグループに所属して研究を進めている中高生の諸君、同年代の仲間たちと研究を進めてみませんか？特に「びわ博子ども若者研究発表交流会」で発表した皆さんや琵琶湖トラストなどの「ジュニアドクター育成塾」を卒業した高校生、研究が進展すぎて先生の手には負えなくなった中高部活の集団参加も歓迎します。10月のはしかけ登録講座でははしかけ会員になった中高生の皆さん、上記のはしかけ代表アドレスにご連絡を。集え梁山泊へ！

【活動報告】

■8月9日(土) 13:00~13:30 びわ博フェスに向けた予備実験

場所:琵琶湖博物館オープンラボ

参加者:2名(はしかけ2名)

昨年のびわ博フェスで実施した「小型水槽による琵琶湖深呼吸の実験」を、昨年参加していなかった方も交えて試してみました。

■9月21日(月祝) 13:00~13:30 びわ博フェスに向けた予備実験

場所:琵琶湖博物館オープンラボ

参加者:2名(はしかけ2名)

「小型水槽による琵琶湖深呼吸の実験」を、前月には団扇で風を送ることによる冷却を駆動力として実施したところを、保冷材による冷却に変えて試してみました。

その他、実施に向けた細かい問題点について検討しました。

【活動予定】

■コロナ禍以前と同じような活動は進められない状況が続いていますが、

とりあえずは、一般来館者の方々を対象に琵琶湖に関わる科学実験を実施するという活動を軸に、当面はびわ博フェスでの活動実現を目標に進めています。

(戸田 孝)



(21) 水と暮らし研究会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ担当職員:楊 平

【活動報告】

■令和8年6月11日(木) 9:00-12:00 晴 参加者 4名

1. 活動内容

今回は、東近江市愛知河口、葉枝見橋から琵琶湖湖岸までに架かる3橋付近の状況を確認した。

県道194号に架かる葉枝見橋付近の流れは河原の中を左右に蛇行しながら細い流れが続いている。左岸側から右岸側に急に蛇行し、堆積する砂や石でできた川底の高低に遮られて向きが変わるのか、蛇行のメカニズムは未知の世界である。河口に近づいた栗見橋付近からは琵琶湖の湖面と水位が一緒になって両岸の土手近くまで巾広く広がった流れに変わる。最下流、湖岸道路に架かる愛知川橋ではさらに川幅が広がり、琵琶湖と一体になって河口部を形成していることを確認した。なお、当日の琵琶湖水位はマイナス15cmであった。

■令和8年7月23日(木) 11:00-12:30 雨 参加者 6名

1. 活動内容

「愛知川の上流から河口まで」の調査結果のまとめ方に関するミーティングを行い、主な内容は以下のとおりである。

本年度のメインテーマであった愛知川流域のくらし、特に水の治水・利水に関する古人の知恵と工夫の痕跡探しと、その痕跡が残った理由も含め、「東近江を流れる愛知川の上流から河口まで」調査内容のまとめ方を討議した。まず、現地調査での写真整理、大まかな調査結果概要について、過去資料の整理を行った。追記として河口最終域の現在の彦根市本庄町である、河口に向かって右岸の葉枝見地区(はえみ)は耕地に対する安定的な水の確保への仕組み作りがあったとの情報などの整理を行う。次回、9月の活動日に同地域の調査について意見交換を行った。

2. 調査の所感

人々が、暴れる川の水から集落を守るため堤防を高く、広くしながら、「猿尾」施設の考案や、流路を浚渫して堆積する砂を取り除き、曲がりくねった川筋を直線にしながら、水と生きて来た痕跡が調査できたことは、大きな意味があった。近年では、上流の永源寺ダムの貯水で一気に流れ出る流量をコントロールできるようになり、愛知川頭首工や愛知川用水のように用水路の分配機能設

備が出来上がって水管理が改善されて来た事実はあるが、一方、古人が活用していた知恵と工夫は現在でも利用、活用されている。昔は豊富に湧出していた地下水脈が途絶えて水量が極端に少なくなり、永源寺ダム、名神高速道路、大規模の工業団地の造成、工場用水の汲み上げ等、上流側の大規模な土木工事の影響で地下水脈に影響がでているかもしれない。とは言え、古人(いにしえびと)の水に対する数々の知恵の痕跡を知れたことは有意義であった。

以下は、愛知川の本流の永源寺山門下の旦度橋付近から河口までの主要橋からの川岸、川の流れ風景の写真である。



□永源寺山門下旦度橋付近の愛知川



□旦度橋の手前で流れ込む支流洪川



□支流は大きな石がごろごろ



□愛知川頭首工付近風景



□御河辺橋付近の堰堤と河原



□河原には角が取れ丸石が点在



□八千代橋付近、渇水期で川幅狭い



□転がる丸石の径は小さい



□御幸橋からの川筋、蛇行の様



□八幡橋付近の蛇行の様子



□葉枝見橋付近の蛇行の様子



□里見橋付近は湖面高さ



□愛知川橋 川幅はフル



□愛知川河口(琵琶湖を望む)

執筆者 小篠 伸二



(22) 内湖を知ろう会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 21 名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

【活動報告】

■2026年7月31日(金) 10:00~12:00 定例会議

場所: 琵琶湖博物館 応接室

参加者: 会員7名

＜活動内容＞

- ・新規メンバー(岩見さん)の紹介
- ・前回のニューズレターでご指摘頂いた事項を全員で共有化(資料等を引用する場合の出典の記載方法)
- ・びわ博フェスに向け、ステージ発表と展示内容を検討
- ・次回の内湖観察会の観察内湖を決める(貫川内湖、浜分沼 ※時間があれば近隣の内湖を観察する)

■2026年9月3日(木) 9:00~16:00 現地調査

場所: 貫川内湖 → 浜分沼 (以上、高島市)

参加者: 会員7人

＜活動内容＞



(※ Google マップに筆者加筆)

午前9時に「米プラザ」に集合し、雨を心配しながら貫川内湖に向かって出発。天気予報通り、貫川内湖調査中に小雨が降ってきた。しかし小雨だったため浜分沼の調査を続行。昼食後も雨が止むことは無かったので、観察会は中断し、昼食場所でびわ博に向けた検討会に切り替えた。雨脚がさらに強くなり15時に打ち合わせを終わらせ、足早に車を走らせ無事集合場所の「米プラザ」到着。

調査内容は、主に地理的(地形的)特徴、景観を観察し、加えて「透視度」を計測した。

“貫川内湖”

JR 湖西線近江今津駅から4kmほど北に位置し、境川で北湖と南湖に分かれている。内湖の周辺は草が刈られ内湖を一周することができた。人影は無く、多くの鳥たちが羽を休め、静かな内湖であった。

流入水路には多くのごみが見られるが、内湖には流入しない様に柵でゴミを止めている。その為、内湖の中にはゴミはほとんど無く、透視度は北湖・南湖共に65cmで澄んだ水であった。

内湖の周囲は草が刈られ、ゴミの流入も防止され、観光する人も少なく、多くの鳥が羽を休められている事を考えると、魚も多く住んでいると想像できる。生物にとっては住みよい内湖と想像する。



(※ Google マップに筆者加筆)



“浜分沼”

浜分沼は貫川内湖から約1kmくらい南に位置している。

内湖の西側は草が生い茂っていたため、東側の風車街道側から、外観を見て回るとどめざるを得なかった。

内湖には滋賀県自然活況保全課の「希少類等植生の保護のため御協力願います。」の看板もあり、この内湖は、環境省の「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」とされている。

内湖の中央には島があり、その島に小屋が建てられている。看板にガチョウを飼育していると書かれているので、飼育小屋と思われる。確認が必要。

シロサギが、内湖に群生していたスイレンのような植物に餌をついばんでいた。群生していた植物に近寄れなかったため、種類を確認することはできなかったが、希少な植物を保護しているのかもしれない。今後の調査が必要と感じられた。

また透視度は35cmと貫川内湖と比べ低い値であった。浜分沼は貫川内湖に近いところに位置しているにも係らず、透視度が半分だった原因を知る事は、内湖の価値を知ることにつながると考える。

小さな内湖であるが、過去の歴史や国や県の保護活動を知ると、さらに調査を進めたい魅力ある内湖であった。



(※ Google マップに筆者加筆)



■2026年9月17日(木) 10:00～13:00 定例会議

場所:琵琶湖博物館 会議室

参加者:会員7名

<活動内容>

- ・第191号ニューズレター案の内容確認
- ・びわ博フェスに向け、ステージ発表と展示内容を検討
- ・次回の内湖観察会(曾根沼、野田沼(彦根)、時間があれば近隣の内湖)の観察ルートを確認

【活動予定】

■2026年10月1日(木)9:00～15:00 現地調査

場所:曾根沼、野田沼(彦根)、時間があれば近隣の内湖

■2026年10月15日(木) 14:00～16:00 定例会議

場所:琵琶湖博物館 会議室

参加者:会員8名

<活動内容>

- ・びわ博フェスに向け、ステージ発表と展示内容を検討
- ・次回内湖観察会の対象内湖を決める

(文責:服部 敏之)

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(10月～11月)

※事前申し込みが必要なイベントもございます。また、日程、内容等変更になっている場合もございますので、必ず事前に琵琶湖博物館ホームページの「イベント情報」で詳細をご確認ください。

⇒ <https://www.biawahaku.jp/event/observe/>

タイトル	内容	期日	曜日	時間	場所	備考
生活実験工房 田んぼ体験 稲刈り・ハサ掛け(2)	生活実験工房の水田を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、稲刈り・ハサ掛け作業を体験して頂きます。	2026年 10月11日	日	10時30分 ～ 12時00分	琵琶湖博物館 生活実験工房	※募集終了 ※参加費 無料 ※小学生以上(小学生は保護者同伴) ※雨天中止
ちこあそ・10月 (ちっちゃな子どもの自然遊び)	博物館の森の中でゆっくりと過ごしなが、五感で触れて、楽しんで、自然の面白さを体験する遊び場です。 10月は秋の虫がみつかるかな。	2026年 10月21日	水	10時00分 ～ 14時00分	琵琶湖博物館 生活実験工房	※定員 10組(先着、要事前申込) ※参加費 無料 ※未就学のお子さまと保護者の方(保護者同伴)
季節の植物でアロマ ウォーターを作ろう!	季節の植物を使って、蒸留器でハーブウォーターを抽出します。抽出液を使ってルームスプレー等を作ってみましょう。	2026年 11月10日	火	11時00分 ～ 12時00分	琵琶湖博物館 生活実験工房	※定員 5名(先着、当日受付) ※参加費 無料 ※どなたでも(小学生以下は保護者同伴)
ちこあそ・11月 (ちっちゃな子どもの自然遊び)	博物館の森の中でゆっくりと過ごしなが、五感で触れて、楽しんで、自然の面白さを体験する遊び場です。 11月は森の中でどんぐり拾いもできるかな。	2026年 11月18日	水	10時00分 ～ 14時00分	琵琶湖博物館 生活実験工房	※定員 10組(先着、要事前申込) ※参加費 無料 ※未就学のお子さまと保護者の方(保護者同伴)

4. 学芸職員・特別研究員による研究セミナー(10月～11月)

琵琶湖博物館では、毎月第3金曜日に学芸職員・特別研究員による研究セミナーを開催しています。最新の研究成果を一般向けにわかりやすく紹介する講座で、琵琶湖の自然・文化・歴史を深く知ることができ、専門家と直接交流できる貴重な機会です。興味のあるテーマがあれば、どうぞお気軽にご参加ください。

※発表者・タイトルが変更される場合がありますので、必ず事前に琵琶湖博物館ホームページの「イベント情報(セミナー)」で詳細をご確認ください。⇒ <https://www.biawahaku.jp/event/seminar/>

タイトル	内容	期日	時間	場所
2026年度 第7回 研究セミナー	発表者1 芦谷 美奈子(水生植物学) 13:15～13:55 演 題 「展示交流」の起こるところ 発表者2 鈴木 隆仁(微小生物学) 13:55～14:35 演 題 「観察池のプランクトン層の変動について」 発表者3 日鷹 一雅[特別研究員] 14:35～15:15 演 題 「ある農学徒の生態学遍歴? “Agroecology”: IPM から IBM、そしてこれからの基礎的研究」	2026年10 月16日(金)	13時15分 ～ 15時15分	琵琶湖博物館 セミナー室

琵琶湖博物館 30 周年記念企画展示関連セミナー 【主催】琵琶湖博物館	琵琶湖博物館 30 周年記念セミナー 「日本のトキの過去・現在・未来 ―身近な水辺にすむ生き物と人の未来」 【プログラム】 13:00 挨拶と趣旨説明「シーボルトがオランダに持ち帰った近江のトキ標本」 亀田佳代子（琵琶湖博物館館長） 13:15 講演1「トキの歴史的分布―近江との関わり―」 尾崎清明（公益財団法人山階鳥類 研究所 副所長） 14:00 講演2「佐渡島で再導入されたトキの生態」 永田尚志（新潟大学名誉教授） 14:45～15:00 休憩 15:00 パネルディスカッション 「トキと人のすむ水辺環境の未来」 15:30 閉会 ※チラシは こちら 。	2026 年 10 月 17 日（土）	13 時 15 分 ～ 15 時 15 分	琵琶湖博物館 ホール ※要事前申込 ※定員 200 名 （先着順） ※参加費無料
琵琶湖博物館 30 周年記念シンポジウム 【主催】滋賀県立琵琶湖博物館 【協力】オランダ国立ナチュラリス生物多様性センター・オランダ国立ライデン世界博物館	琵琶湖博物館 30 周年記念国際シンポジウム 「シーボルト江戸参府 200 周年記念 シーボルトコレクションから学ぶ 水辺環境の未来のために“記録”を残すこと」 【プログラム】 11:00 開催挨拶 11:05 「オランダのナチュラリス生物多様性センターに所蔵されているシーボルト・コレクションの日本産魚類」 エスター M. ドンドルプ（ナチュラリス生物多様性センター、上級コレクションマネージャー） マルティン J.P. ファンオイエン（ナチュラリス生物多様性センター、名誉学芸員） 11:45 「保全分類学 ―標本・記録を残すことの大切さ―」 細谷和海（近畿大学名誉教授） 12:15 昼食休憩&ポスター発表（セミナー室） 13:30 「シーボルトによる、ヨーロッパの人々への琵琶湖の紹介」 ダーン・コック（ライデン世界博物館学芸員） 14:00 「シーボルトの江戸参府と日本の淡水魚」 川瀬成吾（琵琶湖博物館主任学芸員） 14:30 「市民が記録を残す意義―うおの会の活動から―」 中尾博行（琵琶湖博物館うおの会会長） 15:00 休憩 15:10 パネルディスカッション 15:40 閉会 ※チラシは こちら	2026 年 10 月 24 日（土）	11 時 00 分 ～ 15 時 45 分	琵琶湖博物館 ホール・セミナー室 ※要事前申込 ※定員 200 名 （先着順） ※参加費無料
2026 年度 第8回 研究セミナー	発表者1 芳賀 裕樹（陸水物理化学） 13:15～13:55 演 題「未定」 発表者2 R. J. スミス（浮遊生物学） 13:55～14:35 演 題「未定」 発表者3 菅原 巧太郎（底生生物学） 14:35～15:15 演 題「琵琶湖産シジミの肥満度増加に寄与する脂肪酸」	2026 年 11 月 20 日（金）	13 時 15 分 ～ 15 時 15 分	琵琶湖博物館 セミナー室

5. 生活実験工房からのお知らせ

9月6日に今年第1回目の稲刈り(早稲品種)を予定していましたが、あいにくの長雨で田んぼは最悪のコンディション、また当日の天気予報もパツとしない様子で、多数申し込んでいただいた方々には申し訳なかったのですが、中止としました。ぬかるんだ田んぼに足をとられて、カマを持ったお子さんがケガをされてはいけない、との苦渋の判断でした。早生品種は後日、雨の合間を縫って職員で稲刈りを行いました。

来る10月11日には、今年2回目の稲刈り(晩稲品種)をする予定です。10月に入って気持ちの良い秋晴れが続いていますので、今度こそリベンジを果たしたいところです(おそらく本号が出ることには、無事稲刈りも終わっているかと思います！)

12月と2月には刈った稲わらを使い、しめ縄づくりやわら細工のイベントを行う予定です。多数のご応募をお待ちしております。



▲昨年の稲刈りの様子

【今後のイベント予定】

12月19日(土) しめ縄づくり

2月7日(日) わら細工

※事前予約が必要です。ご興味のある方は、琵琶湖博物館ホームページの

イベント情報でご確認のうえ、お申し込みください。

⇒ https://www.biwahaku.jp/event/2026/07/post_1525.html

担当:環境学習・交流係

6. その他の事項

(1) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グループ代表アドレスについては、はしかけ登録講座の際にお渡しした資料をご覧ください。事務局(hashi-adm@biwahaku.jp)までお問合せください。

(2) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(3) はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、必ず会員証を持参してください。会員証を携帯せずに活動することはできません。

(4) はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当職員(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。